

令和4年度サービス管理責任者・ 児童発達支援管理責任者更新研修

研修テキスト

A日程:令和4年7月20日(水) B日程:令和4年7月21日(木)
C日程:令和4年7月22日(金) D日程:令和4年7月25日(月)

◎ 更新研修の位置付けを再確認

更新研修: 自己検証
施策の最新動向、自己検証、
スーパーバイズ

5年毎の更新
サービス(児童発達支援)
管理責任者として継続

実践研修: 質の向上
支援会議の運営、サービス(支援)提供
職員への助言・指導、個別支援計画の
質の向上

サービス(児童発達支援)
管理責任者として配置

基礎研修: プロセス
アセスメント、個別支援計画の作成、
相談支援専門員との連携、多職種連携

個別支援計画の原案作成
が可能

更新研修の目的・獲得目標

【目的】

- ①行政の動向や制度改正等の最新の情報(アップデート)を得る
- ②サービス管理責任者・児童発達管理責任者としてのこれまでの業務内容を振り返るとともに、知識・技術の更なる向上を図る

	研修項目	獲得目標
①	障害者福祉施策及び児童福祉施策の動向	最新の動向を学習することにより利用者の制度的な環境の変化を理解する
②	サービス提供事業所としての自己検証	各自事業所の取組状況や地域との連携の実践状況を出し合うことにより、コンプライアンスを理解し、今後の事業所としての取組を明確して実践に活かす
	サビ児管としての自己検証	サービス提供責任者としての自らの業務を振り返り、支援のあり方や地域とのかかわり方、今後自ら取組むべき課題を明確にして実践に活かす
	関係機関との連携	地域の相談支援専門員や関係機関、さらに(自立支援)協議会との連携状況を再確認して実践に活かす。 (自立支援)協議会の役割を理解する。

更新研修を通じて

気づき



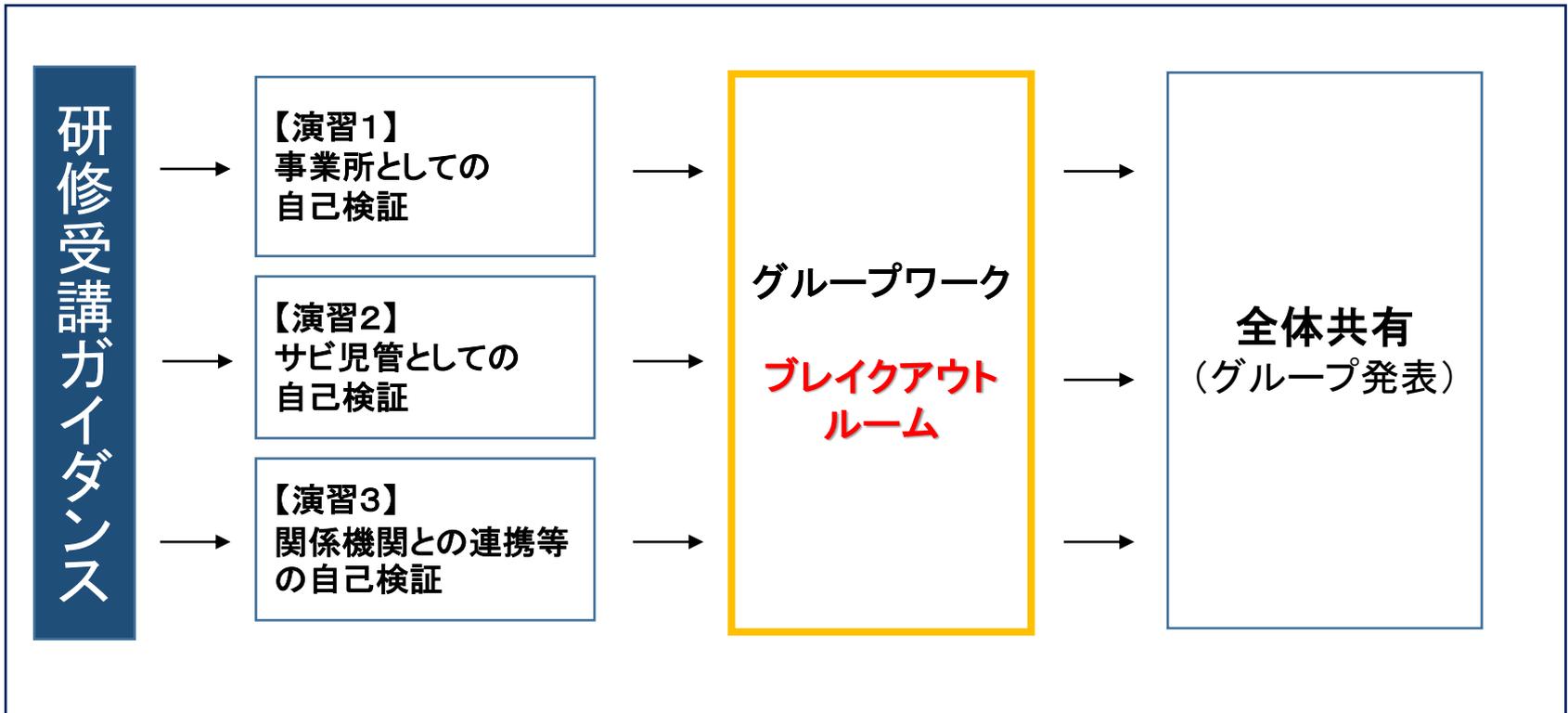
補正



更なる向上



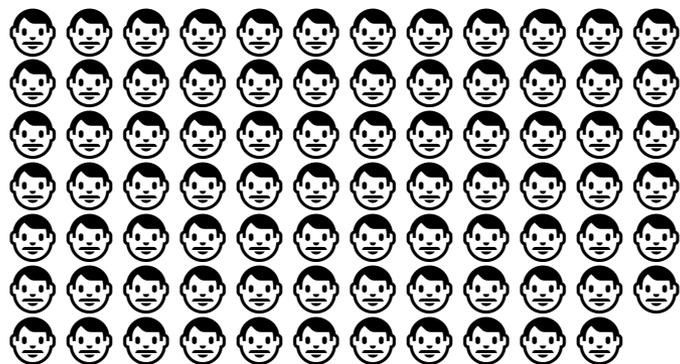
サビ見管更新研修の進め方



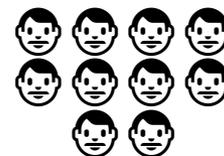
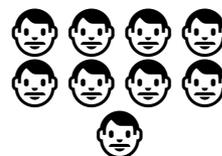
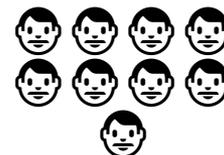
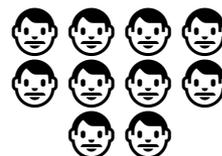
全体ルームとブレイクアウトルーム

(イメージ)

全体ルーム



ブレイクアウトルーム



ブレイクアウトルーム(イメージ)



ファシリテーターは
2グループに1人

受講者
1グループ
8～9名

受講者
2グループ
8～9名

演習にあたってのグラドルールの確認

- 職場環境や経験年数、職種の違いなど、研修を受講される方の層が幅広いことから、演習がスムーズに行えるよう、ルールに則って演習を進めてください。

グランドルール その1

研修(グループワーク)参加者の留意点

- 周りの人に関心を持って、積極的に参加してください。
- 他の方の発言に敬意をはらってください。
- 自分と意見が違ったとしても相手の良いところに注目してください。
- 他の方に自分の意見を押し付けないようにしてください。
- 他の方の発言に共感を示し、耳を傾け理解しようとすることを伝えてください。
- 一人一人の発言を大切にし、一人で話し続けることのないようにしてください。
- 発言の意味が良く分からない時は、そのままにせず分かりやすく説明をしてもらおうようお願いしてください。
- 専門用語や地域性、自分の経験のみでの発言は十分に配慮してください。
- 自分の意見にこだわり、議論が同じ所で繰り返されないように配慮してください。
- ユーモアを忘れずに、和やかな雰囲気づくりにご協力ください。

グランドルール その2

研修(グループワーク)参加者の留意点

- 笑顔を大切に、積極的に参加してください。
- 忙しい中、研修に参加しているのは皆様同じです。
- 互いの話をよく聴いて受け止め、共感しあってください。
- 発言は長くて90秒と心がけてください。
- 感謝と励まし、相互尊重の精神で臨んでください。
- 主義主張をぶつけ合いながら、討論する場ではないことを踏まえて発言してください。

演習の進め方【各セッション共通】

1. 演習の進行は受講者が行い、演習講師（ファシリテーター）は進行役のフォローや取りまとめる際の助言等を行います。
2. グループ内発表及び質疑の時間は厳守してください。
3. できるだけ多くの受講者が発言できるようにしてください。
4. 批判的な発言が目立つようならグラウンドルールを読み直してください。

演習1スケジュール

11:25～11:30（5分）

○役割分担（進行、タイムキーパー）を決める。

※ 役割は、演習（1～3）ごとに担い手を変えてください。

11:30～12:30（60分）

○演習1 事業所としての自己検証

12:30～12:40（10分）

○演習1 全体共有（個人発表）

※発表者は、演習講師が選出します。

合計75分

事業所としての自己検証

サビ児管の業務には、利用者への支援から支援員への助言・指導、苦情対応や管理者への支援状況報告など、その役割は多岐にわたります。しかし、サビ児管業務を行うに当たっては、サビ児管が業務を行う環境(風土)を整えることも同時に必要です。ここでは組織環境について確認していきます。

事業所としての
自己検証

役割決め演習
のポイント

事前
課題
1

グループワーク

全体共有
グループ発表

①役割分担

演習1～3の役割分担(進行、タイムキーパー)を決める。…5分

② 事前課題1の発表【発表(3分)→質疑(1分)】…40分

・「良いと思う取組み」をメモをとる。

③事前課題報告での「良いと思う取組み」を共有する。…20分

・良いと思う取組みをグループでまとめる(各自記録する)

④全体共有(個人発表)…10分

・発表は演習講師が選出します。



演習1の手順

11:30~12:30 事業所としての自己検証

①事前課題1の発表

- ・発表(1人3分)→質疑(1分)を行う。(4分×10名)
- ・「良いと思う取組み」をメモをとる。

②発表の「良いと思う取組み」を共有する。(20分)

- ・メモしたものをグループで共有し、各自まとめる。

→スライド16

③全体共有(個人発表)【10分】

- ・発表は演習講師が選出する。

合計70分



演習1の留意点

1. 事前課題の内容整理は、批判的なことは避け、良い取り組みと思われた内容について意見交換し、自身の事業所でも参考にして取り組んでみたいことを整理する。
2. 報告時の「良い取り組み」として見る視点については、組織の工夫として、①情報伝達や共有方法(日常の業務的コミュニケーション、会議等)、②サビ児管のフォローアップ体制(サビ児管が困ったときの相談できる体制)、③チームアプローチ(管理者や看護師、支援員など事業所内の連携の工夫)などに着目する。

演習1 事業所としての自己検証 Gまとめ

良い取り組みについて

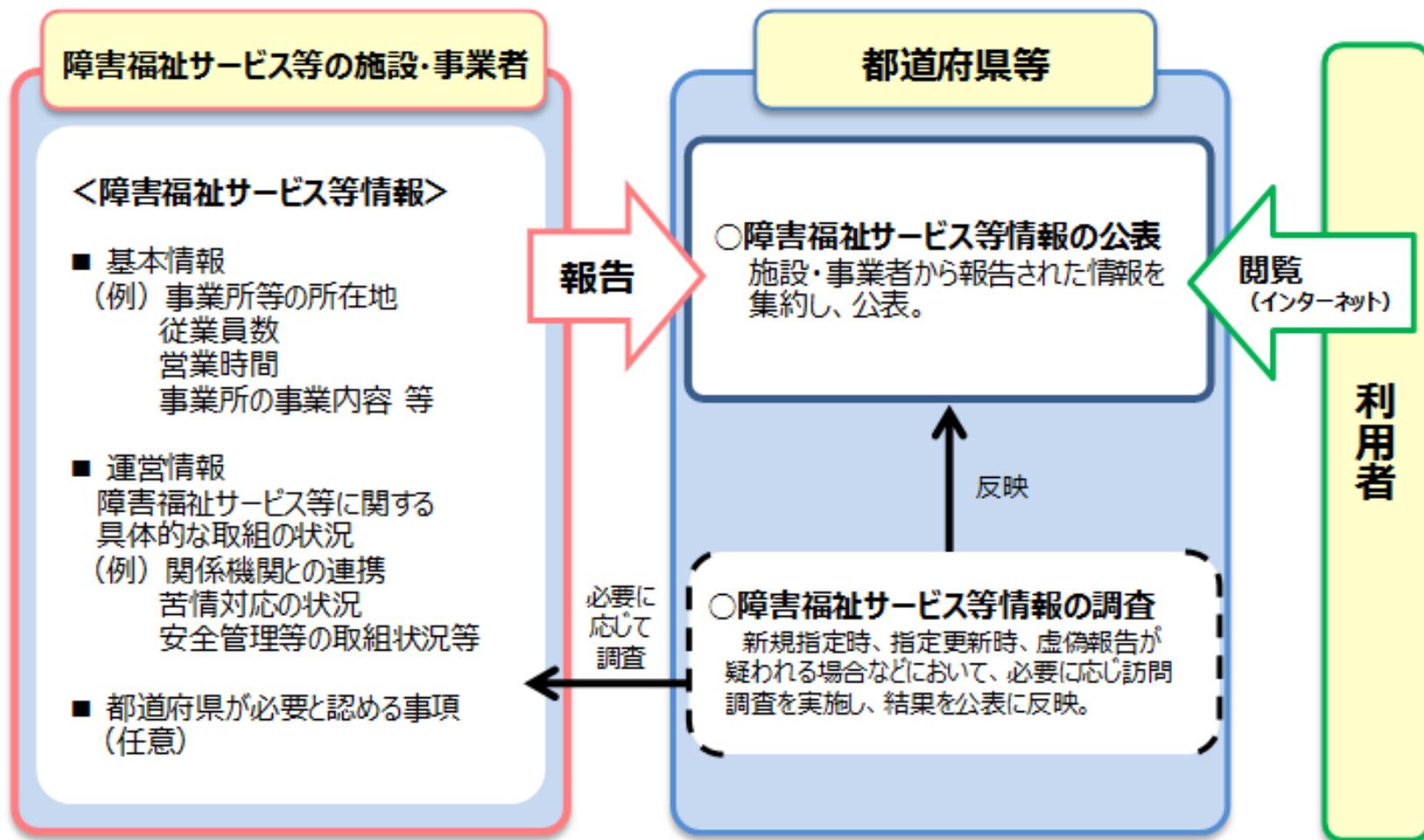
組織体制

コミュニケーション・チームワーク

人材育成

地域との関わり・ネットワーク

情報公開制度に基づく事業所評価について



昼食休憩

12:40～13:40（60分）

○開始時間までに席にお戻りください。



演習2スケジュール

13:40～13:50（10分）

○演習2 ガイダンス

13:50～15:35（105分）

○演習2 サビ見管としての自己検証

15:35～15:45（10分）

○演習2 全体共有（発表）

※ 発表者は、演習講師が選出します。

合計125分

サビ見管としての自己検証

サビ見管の業務内容は多岐にわたりますが、ここでは、①個別支援計画の作成(意思決定支援の展開)、②支援記録、③会議の実施、④支援員への技術指導及び助言、⑤苦情解決、⑥虐待防止(権利擁護)、⑦機密の保持について自己の業務を振り返り、グループ参加者の意見も参考にしながら、サビ見管として行うべき業務を整理します

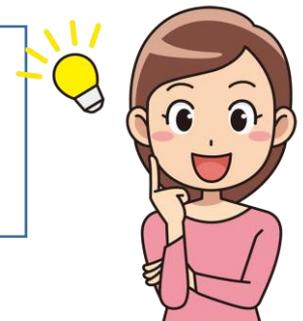
サビ見管としての自己検証

演習のポイント・グラドルール

事前課題2

グループワーク

全体共有
グループ発表



【演習2】 グループ別 報告・検討項目

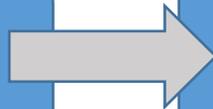
1. 個別支援計画（1）～（3）
全グループ

3. 会議について



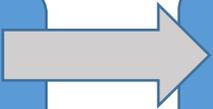
1・2・3・4

4. 技術指導について



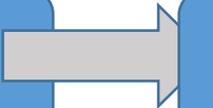
5・6・7・8

5. 苦情解決について



9・10・11・12

6. 虐待について



13・14

演習2の手順

13:50~15:35 サビ見管としての自己検証

①事前課題2のグループ内発表

- ・発表(1人5分)→質疑(2分)を行う。(7分×10名)
- ・「良いと思う取組み」をメモをとる。(70分)

②発表された取組みについて、意見、アイデアを出し合いグループでまとめる。(各自記録35分)

→スライド24

③全体共有(個人発表)【10分】

- ・発表は、演習講師が選出します。



Web ©

合計115分

演習2の留意点

1. 「意見・アイデア」については、自分はこのようにしたら改善したなどの工夫、または周囲の協力によってできていることをメモする。
2. グループメンバーの報告を聞いて、自分及び事業所に活用できる事柄を見出す。
3. サビ児管として必要な業務ができていないことがあるかもしれないが、落胆するのではなく、まずは役割業務を理解し、スキルアップしていくことが大事であることを認識する。

演習2 事業所としての自己検証 Gまとめ

個別支援計画の作成(全G)

良い取り組み

意見・アイデア

モニタリングについて(全G)

良い取り組み

意見・アイデア

説明と同意(全G)

良い取り組み

意見・アイデア

(G振り分け)

良い取り組み

意見・アイデア

演習3スケジュール

16:00～16:10（10分）

○演習3 ガイダンス

16:10～17:05（55分）

○演習3 関係機関との連携等についての
自己検証

17:05～17:15（10分）

○演習3 全体共有（発表）

※発表者は、演習講師が選出します。

合計75分

関係機関との連携等の自己検証 演習のポイント

①関係機関との連携、②相談支援専門員との連携、③担当者会議の開催、④(自立支援)協議会への参加について自己の業務を振り返ります。特に、相談支援専門員との連携は欠かせませんので、どのような連携が望ましいかを検討します。また、事業所外で生じる問題を地域課題として捉え、解決に向けて関係機関との連携や(自立支援)協議会の活用について理解を深めます。

事前課題3を用いて自己の業務を振り返り、グループ参加者の意見も参考しながら改善を図っていきます。



【演習3】グループ別 報告・検討項目

2. 相談支援専門員との連携 全グループ

1. 関係機関との連携
について

1・2・3・4・5・6

3. 担当者会議の開催

7・8・9・10

4. 自立支援協議会の
参加

11・12・13・14

演習3の手順 関係機関との連携についての自己検証

- ①事前課題3の発表【発表1人3分 質問1分】
 - ・他メンバーの参考になる取組み実践やアイデア等を各自で記録して下さい。 【40分】

- ②意見やアイデアをグループで共有し、個人で記録して下さい。
⇒ スライド29 【15分】

- ③全体共有（個人発表）
 - ・発表者は演習講師が選出します。 【10分】

合計65分

演習3 事業所としての自己検証 Gまとめ

相談支援専門員との連携(全グループ)

良い取組み

アイデア・意見

良い取組み

アイデア・意見

()

演習3の留意点

1 (自立支援)協議会は、障害者の地域での生活を考える場であることから、事業所が協議会に参画する意味として、①利用者は地域の支えもあって生活していることから、事業所も地域の視点を持つことが大事、②対応が難しい利用者への支援に当たっては、専門機関や地域の協力や理解が必要となること、③災害時、など様々なことが考えられる。

2 相談支援専門員や関係機関との連携は、サビ児管が主となってどのように連携するかについて考える。